

No	基本政策	施策	ページ	区分	発言者	発言内容	対応方針	計画素案 [6.14時点]	計画修正案
----	------	----	-----	----	-----	------	------	------------------	-------

06 生活・環境 (P45~46)

■これまでの審議で、修正する方向で整理を行ったもの

1	6 生活・環境		45	意見	上赤委員	生活・環境の冒頭のリード文について、「自然保護」のフレーズがあるが、近年のトレンドを踏まえて「自然環境の保全」のほうが適していると考え。	意見を踏まえ、差替える方向で検討したい。 リード文では、自然環境や生物多様性の保全を含む広義の文言を用いて記載したい。	佐賀市は山から海まで自然に恵まれたまちです。この環境が守られるかどうかは、一人ひとりの行動や活動の積み重ねが大きく影響します。今ある佐賀らしい自然を守り、将来にわたって快適に暮らしていくために、市民、事業者、行政それぞれがライフスタイルの見直しや脱炭素、自然保護など、自分たちが暮らす地球環境の未来へ思いを馳せながら、主体的に考え、実行していきけるように取り組んでいきます。	佐賀市は山から海まで自然に恵まれたまちです。この環境が守られるかどうかは、一人ひとりの行動や活動の積み重ねが大きく影響します。今ある佐賀らしい自然を守り、将来にわたって快適に暮らしていくために、市民、事業者、行政それぞれが ライフスタイルの見直し、脱炭素化の推進、自然との共生 など、自分たちが暮らす地球環境の未来へ思いを馳せながら、主体的に考え、実行していきけるように取り組んでいきます。
2	6 生活・環境	脱炭素が当たり前の社会の実現	46	意見	北原委員	昨年、水素基本戦略が改定され2040年を目処に水素エネルギーの活用を拡大していく方針が定められている。これを踏まえて、⑤の文章においても、「研究」に留まるだけでなく、「普及」や「活用」といった記載にする方が望ましいのではないか。	意見を踏まえ、差替える方向で検討したい。	【1 脱炭素が当たり前の社会の実現】 ⑤産学官が連携し、次世代エネルギーの供給・需要の拠点形成に向けた研究を行います。	【1 脱炭素が当たり前の社会の実現】 ⑤産学官が連携し、次世代エネルギーの供給・需要の拠点形成に向けた研究を行い、 その普及と活用に向けて取り組みます。
3	6 生活・環境	「捨てる暮らし」から「活かす暮らし」への転換	45 46	意見	北原委員	3Rの取組は従来進めてきたかと思うが、近年はサーキュラーエコノミーへの移行が環境省でも示されているため、この考え方を計画内に盛り込んでいいのではないかと思う。	意見を踏まえ、差替える方向で検討したい。	主なポイント 市民一人ひとりが3Rに取り組むことができる環境があること プラスチックの資源循環をはじめとして持続的なリサイクルシステムを確立すること	主なポイント 市民一人ひとりが3Rに取り組むことができる環境があること プラスチックの資源循環をはじめとして 持続的に資源を利用する循環経済へ移行すること
4	6 生活・環境	豊かな自然と心地よい暮らしの調和	45	意見	上赤委員	2040年に目指す市民等の姿の「自然や動物と共存するまち」のフレーズについては、植物の観点が抜けているので、「自然や生物と共存するまち」に変更するのが望ましい。	意見を踏まえ、差替える方向で検討したい。	【2040年に目指す市民の姿】 3.市民は、豊かな自然を守るため、自らできることに取り組み、自然や動物と共存するまちで快適に暮らしている。	【2040年に目指す市民の姿】 3.市民は、豊かな自然や 身近な生活環境 を守るため、自らできることに取り組み、 自然や生物と共存するまち で快適に暮らしている。
5	6 生活・環境	豊かな自然と心地よい暮らしの調和	45	意見	上赤委員 大江委員	主なポイントについて、外来生物についての記載は、右側の取組に同様の内容が書かれているので、記載不要ではないか。主なポイントの構成としては、1つめに「市の多様な自然や生態系の価値を知って理解すること」、2つめに「生物多様性を高めるために、自然環境の保全が行われていること」として、知ることと行動を持っていくとつくりくのでいいと思う。 今の佐賀の自然を知り・親しみ、これからも保全していくという記述をもう少し加えてもいいのではないか。	意見を踏まえ、差替える方向で検討したい。	主なポイント 生物多様性や動植物の保全・共生に関する理解が浸透すること 市民と協力して外来生物への対応を強化すること	主なポイント 佐賀市の多様な自然や生態系について学び、自然環境の保全や再生に取り組んでいること 市民と協働して 良好な生活環境の維持 に取り組むこと
6	6 生活・環境	豊かな自然と心地よい暮らしの調和	46	意見	大江委員	2040年に目指す市民等の姿では「自然や動物」と記載しているが、主なポイントで「動植物」になっているため統一させるべきではないか。	意見を踏まえ、差替える方向で検討したい。	【3 豊かな自然と心地よい暮らしの調和】 ①環境学習の機会を市民に提供するなど、生物多様性に関する理解を促進し、佐賀市が誇る自然環境の保全や回復を行います。 ②有明海の希少な動植物や産物等の恵みを生活や産業活動に持続的に活用し、ひがさを拠点として交流・学習の機会を創出します。	【3 豊かな自然と心地よい暮らしの調和】 ①環境学習の機会を市民に提供するなど、生物多様性に関する理解を促進し、佐賀市が誇る自然環境の保全や 再生 を行います。 ②有明海の希少な 生物 や産物等の恵みを生活や産業活動に持続的に活用し、ひがさを拠点として交流・学習の機会を創出します。

No	基本政策	施策	ページ	区分	発言者	発言内容	対応方針	計画素案 [6.14時点]	計画修正案
----	------	----	-----	----	-----	------	------	------------------	-------

■ 前回の審議会でもいただいたご意見

7	序論・基本 構想	将来像	25	意見	内藤委員 大江委員	先人が築いてきた過去や歴史をどのように活かしていくかという視点が計画に必要と考える。 p.25の一つ目の目標について。「これまでにあった資産や歴史を守ることは前提として～」の「資産や歴史」のフレーズだけでは、心もとないと思う。この文章に「文化」を追加し、「資産、歴史、文化」とすればより良いのではないか。後述の「まちが持つ自然や個性、人々のつながり」を包含して、文化と言えると思う。	意見を踏まえて、修正する。 ※内容は、総合・地域分科会で審議を行う。	■ 将来像に向けた目標 ○変化に向き合い挑み続けることで進化し続ける「まち」になろう 気候変動や災害の激甚化、人口構造の変化等、私たちを取り巻く環境は大きく変化していきます。私たちの「まち」も、常に時代や社会の変化に対応することを求められています。 これまでにあった資産や歴史を守ることは前提として、一方で、変化に向き合い進化に変えていくこと、まちが持つ自然や個性、人々のつながりを大切にしながら変わり続けることで、このまちに住む人々にとって心地よいまちづくりを進めていきます。	■ 将来像に向けた目標 ○変化に向き合い挑み続けることで進化し続ける「まち」になろう 気候変動や災害の激甚化、人口構造の変化等、私たちを取り巻く環境は大きく変化していきます。私たちの「まち」も、常に時代や社会の変化に対応することを求められています。 これまでにあった資産や歴史、文化を守ることは前提として、一方で、変化に向き合い進化に変えていくこと、まちが持つ自然や個性、人々のつながりを大切にしながら変わり続けることで、このまちに住む人々にとって心地よいまちづくりを進めていきます。
8	序論・基本 構想	将来像	26	意見	上赤委員	全体的に、平野部に寄った計画内容となっている、という意見に関連して。里山の維持管理については、人口減少に伴って難しくなってくると思う。この観点はどの分野で取り扱うべきなのか。生活環境の中に必要ではないかと思うが、生活環境だけの問題でもないと思う。イノシシもどんどん出てきてきているので、しっかりと加味すべき問題と考えている。市としてどこの分野で押さえるかを含め、検討して欲しい。	平野部に寄った計画内容となっているという意見であったが、佐賀市は南北に広く、海もあれば山もあり、地域によって個性がある。このことについては、基本構想の将来像のうち、新たな「佐賀らしさ」に含め、それを大切にしながら磨き上げるということをしっかり謳い込む。 里山については、P32「土地利用」の中で、「里山の保全」について記載している。保全の手法に当たっては、野生生物や農地の問題等複数の分野にまたがっており、それぞれの施策の中で個別に整理を行いたい。 ※内容は、総合・地域分科会で審議を行う。	■ 将来像 『佐賀らしさでみんなが上を向くまち（仮）』 （中略） 豊かな自然に囲まれながら、都市と調和した便利な暮らしができること。 平坦で広い平野の上で、どこまでも続く広い空の下で、のびのびと過ごせること。 身近なところに温泉があり、美味しい食事に囲まれていること。 ときに街に出かけ、ときにスポーツや文化に夢中になる、そんなワクワクがたくさんあること。 暮らす人々がふれあい、つながり合う、あたたかい地域があること。	■ 将来像 『佐賀らしさでみんなが上を向くまち（仮）』 （中略） 豊かな自然に囲まれながら、都市と調和した便利な暮らしができること。 平坦で広い佐賀平野の上で、どこまでも続く広い空の下で、のびのびと過ごせること。 有明海に面し、嘉瀬川や筑後川が流れ、縦横にクリークが巡る、水の豊かさを感じられること。 脊振・天山山系の山々の恵みを感じられる暮らしができること。 身近なところに温泉があり、美味しい食事に囲まれていること。 ときに街に出かけ、ときにスポーツや文化に夢中になる、そんなワクワクがたくさんあること。 暮らす人々がふれあい、つながり合う、あたたかい地域があること。
9	序論・基本 構想	土地利用	32	意見	高田委員	【意見・質問一覧表NO.11】 有明海沿岸ゾーンの九州佐賀国際空港の記載について、「国際交流」は具体的にどのようなことを促していきたいのか明確にした方が良いと思う。福岡空港の代替としての役割や、九州における災害時の広域的な連携の拠点ともなりうる点に触れた方が良いのではないか。	「福岡空港の代替としての役割」といった空港の利活用策は、空港を所管するところによって図られるものだと考えている。総合計画では、国際空港があるという強みを生かした「土地利用」の方針を示し、ご指摘のあった「九州における災害時の広域的な連携」などの詳細については、ご意見を参考にしながら総合戦略や関連する主な個別計画内で整理していきたい。 ※内容は、総合・地域分科会で審議を行う。		
10	基本計画	横断的な視点	34	意見	上赤委員	【意見・質問一覧表NO.2】 生物多様性の保全は国連が定めた課題であり、2040年を見据えた計画の中でしっかりと押さえるべき観点である。序論の社会潮流の項目に、「㊦生物多様性の保全」の追加を提案する。	「生物多様性」については、重要な観点と認識しており、踏まえるべき社会の潮流というより、どちらかというと全ての施策を打つ上で踏まえるべき視点ではないかと考えており、P34の横断的視点に記載したい。 特に、3番目に「持続性」という項目があり、この項目の中に委員ご指摘の「生物多様性」の観点を追加する方向で整理を行う。	㊦持続性・・・持続性を追求し、次世代につながる社会へ気候変動から地球を守るために、今、世界的に具体的な対策が求められています。 自然環境に負荷の少ないエネルギーの活用や脱炭素型のライフスタイルを進めることで、カーボンニュートラルの実現を目指します。また、産業革命以来の化石燃料中心の経済・社会、産業構造をグリーンエネルギー中心に移行させた経済社会システム全体の変革にも注目していきます。	㊦持続性・・・持続性を追求し、次世代につながる社会へ気候変動から地球を守るために、今、世界的に具体的な対策が求められています。 自然環境に負荷の少ないエネルギーの活用や脱炭素型のライフスタイルを進めることで、カーボンニュートラルの実現を目指します。また、産業革命以来の化石燃料中心の経済・社会、産業構造をグリーンエネルギー中心に移行させた経済社会システム全体の変革にも注目していきます。加えて、生物多様性を保全し、今ある環境を次世代へとつなげていきます。

No	基本政策	施策	ページ	区分	発言者	発言内容	対応方針	計画素案 [6.14時点]	計画修正案
11	序論・基本構想			意見	北原委員	【意見・質問一覧表NO.4】 総合計画の中で最終目標（KGI）を示し、総合戦略や関連する個別計画にてKPIが示されるような整理が必要ではないか。	16年という長いスパンの計画という前提もあり、現状で16年後に捉えるべき数値については環境の分野では確かに立てやすいと思うが、政策分野によっては設定しにくいという実情がある。そのため、今回の総合計画ではあえて数値目標は設定せず、総合戦略の中で設定することとしている。		
12	6生活・環境	脱炭素が当たり前の社会の実現	45	意見	北原委員	【意見・質問一覧表NO.4】 「ゼロカーボンシティさがし」で2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを宣言されているが、数値目標ゼロを総合計画にKGIとして記載しないと、関連する個別計画に記載しても市民にも認知されないのではないか。総合計画に記載するべきと考える。	総合戦略や関連する個別計画において整理したい。		
13	6生活・環境	脱炭素が当たり前の社会の実現	46	意見	有田委員	脱炭素がフォーカスされているが、愚直に減らすという方向ではなく、別の場所に植樹するなどのバランスの取り方もあると思う。また、過剰包装も気になる。例えばヨーロッパなどは量り売りが進んでおり、行政を通じて地道なところから進めることができないか。	カーボンニュートラルは、温室効果ガス排出量を出来るだけ削減し、削減できなかった温室効果ガスを吸収または除去することで実質ゼロにすることである。 従って、削減の取組だけでなく、健全な森林整備等によるCO2吸収策も重要と考えている。 過剰包装の影響など環境問題については、啓発イベント等を通じて市民意識の醸成や地域企業との協力が考えられる。市民の行動変容につながる取組については、アンケート等を活用することで、より有効な手段を考えていきたい。		
14	6生活・環境	豊かな自然と心地よい暮らしの調和	45	意見	上赤委員	生活環境については、市民から声が上がると思う。しかし、自然環境については自然が声を発する訳はないため、意識しないと見落としてしまう。既に、佐賀市から消えてしまった植物や昆虫もいる。環境関係の部署に所属していない方であっても、行政職員は自然環境に対して強い意識をもって欲しい。	市民のみならず職員への環境教育も重要であると考えている。 今後も市の公共工事に係る自然環境調査や、昨年度も開催した生物多様性に関する職員研修会などを実施していく。 これらを通して、希少種の保全や外来種対策など、自然環境保全の必要性について理解を深めていきたい。		
15	6生活・環境	豊かな自然と心地よい暮らしの調和	46	意見	上赤委員	佐賀平野は琵琶湖の次に魚種が多い。有明海の魚が全部上がってくるため、非常に多様性が富んでいる。佐賀は魚種が多いという財産があるので、この価値はまちづくりに活かせるのではないかとと思う。	関連する個別計画において、佐賀平野が誇る水生生物の多様性の保全について整理したい。		

No	基本政策	施策	ページ	区分	発言者	発言内容	対応方針	計画素案 [6.14時点]	計画修正案
----	------	----	-----	----	-----	------	------	------------------	-------

08 防災・安全 (P49~50)

■これまでの審議で、修正する方向で整理を行ったもの

なし

■前回の審議会でもいただいたご意見

16	8 防災・安全	総合的な防災・危機管理対策の充実	49 50	意見	高田委員	【意見・質問一覧表NO.10】 この先の技術革新がどのように進んでいくかわからない中においても、漠然とでも構わないので、例えばスーパーアプリによるパーソナルデータの活用が災害時の市民の助けになるなど、何かしらデジタル活用の観点を記載しても良いのではないかと。	今後の技術革新のことも不透明なところもあり、現状は具体的な取組等はあえて記載せずそれぞれの時代に即した「最新技術」を導入・活用するという記載に留めている。		
17	8 防災・安全	激甚化・頻発化する水害に備えたまちづくり	52	意見	有田委員	アトラクションを考えた方がいい。活性化はアトラクションを作ることだと思う。水が流れていない川やため池が目につく。人が水に触れられるような環境がアトラクションに繋がるのではないかと。	夏休み期間中に開設している多布施川の水遊び場など、市民が水と触れあえる場を設けている。 嘉瀬川の水量が多い時には、市街地への流入量を増やすように関係機関と連携して、市内に水が行き渡るように努めている。 河川・水路の適切な管理で、流水機能を維持し、水辺空間を保全していく。 水辺空間の保全は、水害に強いまちづくりにもつながるため、個別計画の中で整理したい。		
18	8 防災・安全		47 48	意見	高田委員	【意見・質問一覧表NO.9】 コミュニティが常時だけでなく災害時などの有事にも機能する状態にしていくこと、また、定住している人だけではなく多様な暮らし方が認められコミュニティに関わり続けることのできる状態を作ることが必要で、計画の中に含めるのは難しいかもしれないが、人と人の繋がりは他の分野にも大きな影響を与えるような考え方ができると思う。	防災・安全のリード文の中に、平時の備えが非常時の安全確保につながるという文言を追加する。この文言の中に、指摘の意見の内容も読み込ませたい。	○08防災・安全 安全な暮らしが日々の備えで支えられているまち 台風や地震等の自然災害、低平地という佐賀市の特性から悩まされる水害、そして、多様化・複雑化する犯罪や交通事故。このような脅威から私たちの暮らしを守るには、日々の備えが重要です。 安全な暮らしを実現するため、ハード・ソフトの両面から備えを充実させたまちづくりを進めます。	○08防災・安全 安全な暮らしが日々の備えで支えられているまち 台風や地震等の自然災害、低平地という佐賀市の特性から悩まされる水害、そして、多様化・複雑化する犯罪や交通事故。このような脅威から私たちの暮らしを守るには、日々の備えが重要です。 そのことが、非常時の安全確保につながります。 安全な暮らしを実現するため、ハード・ソフトの両面から備えを充実させたまちづくりを進めます。
19	8 防災・安全	地域ぐるみによる生活者の安全確保	50	意見	高田委員	「3 地域ぐるみによる生活者の安全確保」のうち、常時の安全確保の観点から、「1 総合的な防災・危機管理対策の充実」の災害時の安全確保にも繋がる・・・というような言葉があってもいいのではないかと。	各施策の政策のリード文に、指摘のあったニュアンスを追加する。		

No	基本政策	施策	ページ	区分	発言者	発言内容	対応方針	計画素案 [6.14時点]	計画修正案
----	------	----	-----	----	-----	------	------	------------------	-------

09 都市・交通 (P51~52)

■これまでの審議で、修正する方向で整理を行ったもの

なし

■前回の審議会でもいただいたご意見

20	9 都市・交通	魅力ある居住環境の創出	52	意見	大江委員	【意見・質問一覧表NO.12】 「①生活利便性の高い地域への居住誘導と既存集落を維持する開発許可制度の適切な運用を図ります」だけを読むと、北部山間地域に居住する人は、自身も対象となるのかと不安に思われるのではないかと。北部地域などの過疎地域は、個人が担う役割が多い。北部地域をどのように維持するのか、総合計画に細かく書く部分はないかもしれないが、北部がどんな風になるのか分かるかと安心するのではないかと。	北部山間地域の集落機能の維持については、個別計画において事業を進めており、開発許可制度の運用についても当該計画との整合を図る必要がある。ご意見にあった「北部地域をどのように維持するか」については、総合戦略や関連する主な個別計画内で整理していきたい。		
21	9 都市・交通	市民と織りなす都市のみどりと美しい景観	52	意見	内藤委員	道路標識など、デザインがこれまで全然進化していない。機械的ではない優しいデザインやみどりのあるまちづくりなどの都市景観の整備を考えるべきではないかと。	総合戦略や関連する主な個別計画内で整理していきたい。		
22	9 都市・交通	人と環境に配慮した道路ネットワーク整備	52	意見	北原委員	【意見・質問一覧表NO.13】 「①道路ネットワークが充実することで、移動時間の短縮や渋滞の緩和を図り、地域経済の生産性向上やCO2排出量の削減に寄与します。」の記載について、「寄与」ではなく、CO2排出量ゼロを目指すなどの表現が適切ではないかと。また、p.45の市民等の目指す姿の中の「市民生活や事業活動に必要なエネルギーは、再生可能エネルギーで賄われている。」との整合性も取れていないのではないかと。加えて、環境面では交通GXの記載も必要ではないかと。	分科会での回答のとおり、市の脱炭素の施策に対して、道路ネットワークが充実することに関連する効果として、エネルギー消費を減らすことはできても、直接的に「CO2排出量実質ゼロ」を実現することは不可能である。 あくまで、間接的に「CO2排出量の削減に寄与する」ことであるため、表現の修正は行わない。 また交通GXに関する記載検討について、本計画素案は、国のGXの取り組みと合致しており、現状の表現で、これらの交通GXの理念は包含していることから、検討の結果、「交通GX」を単語としては明記しない。	<p>【左ページ】 2040年に目指す市民等のすがた</p> <p>主なポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内の拠点間をつなぐ幹線道路ネットワークを充実すること 快適で安全に通行できる交通環境を整備すること 道路インフラの長寿命化や維持・管理の高度化・効率化を実現すること <p>【右ページ】</p> <p>① 道路ネットワークが充実することで、移動時間の短縮や渋滞の緩和を図り、地域経済の生産性向上やCO2排出量の削減に寄与します。</p> <p>② 安全で快適な歩行空間や自転車走行空間の整備を図ります。</p> <p>③ 最新技術やデジタル技術を活用し、道路インフラの長寿命化や維持管理の高度化・効率化を図ります。</p>	<p>○項目の表記順序の入替え</p> <p>【左ページ】 2040年に目指す市民等のすがた</p> <p>主なポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 快適で安全に通行できる交通環境を整備すること 市内の拠点間をつなぐ幹線道路ネットワークを充実すること 道路インフラの長寿命化や維持・管理の高度化・効率化を実現すること <p>【右ページ】</p> <p>① 安全で快適な歩行空間や自転車走行空間の整備を図ります。</p> <p>② 道路ネットワークが充実することで、移動時間の短縮や渋滞の緩和を図り、地域経済の生産性向上やCO2排出量の削減に寄与します。</p> <p>③ 最新技術やデジタル技術を活用し、道路インフラの長寿命化や維持管理の高度化・効率化を図ります。</p>
23				意見	有田委員	かつて実施されていたオランダハウス事業、アーティスト・イン・レジデンスを復活できないかと。山間部などにアーティストを呼び込むような取り組みができれば、過疎地域と都市部の交流も盛んになるのではないかと。	オランダハウス事業については、明治維新150年を記念する肥前さが幕末維新博の会場の一つとして、県が実施したものの。アーティスト・イン・レジデンスの観点や、過疎地域と都市部の交流という観点は今後の取組の参考とさせていただきます。		